

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続＞

御嶽山では、火山灰を噴出するような噴火が継続しているものと推定され、引き続き火山活動は高まった状態で推移しています。

9 月 27 日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、振幅の増減を繰り返しながら継続していましたが、昨日（10 月 1 日）に入ってから徐々に小さくなり、昨日 19 時頃からは検知できない程度の大きさになっています。

【防災上の警戒事項等】

御嶽山では、火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

○ 活動状況

・微動の発生状況（図 1）

噴火発生の 11 分前の 9 月 27 日 11 時 41 分頃から連続して発生していた火山性微動は、9 月 29 日 19 時 20 分頃から 9 月 30 日 01 時 15 分頃にかけて一時的に振幅が大きくなった後、9 月 30 日 06 時 12 分頃から再びやや大きくなるなど、振幅の増減を繰り返していました。10 月 1 日に入ってから徐々に振幅が小さくなり、13 時頃からは 9 月 29 日 19 時 20 分以前の状態に戻っていました。さらに、10 月 1 日 19 時頃からは検知できない程度の大きさとなっています。

噴煙の高さは 16 時現在、山頂付近に雲がかかり不明です。

火山性微動は検知できない程度の大きさになりましたが、火山性微動の振幅の小さな期間でも、山麓でわずかに降灰があったとの報告が、本日（2 日）13 時頃、現地調査を行っている気象庁機動調査班（JMA-MOT）からあったことから、火山灰を噴出するような噴火は継続しているものと推定されます。

火山性微動の振幅の増減は、山頂付近浅部での火山活動の消長を表しているものと考えられますが、火山性微動の振幅が小さくなったことが必ずしも火山活動の低下を表すものではありません。

・火山ガス（二酸化硫黄）の状況（図 2）

9 月 28 日以降、上空及び山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1 日あたりおおそ 500 トンから 1500 トンで推移しています（いずれも速報値）。火山活動に伴う二酸化硫黄の放出量としては多い状態となっています。

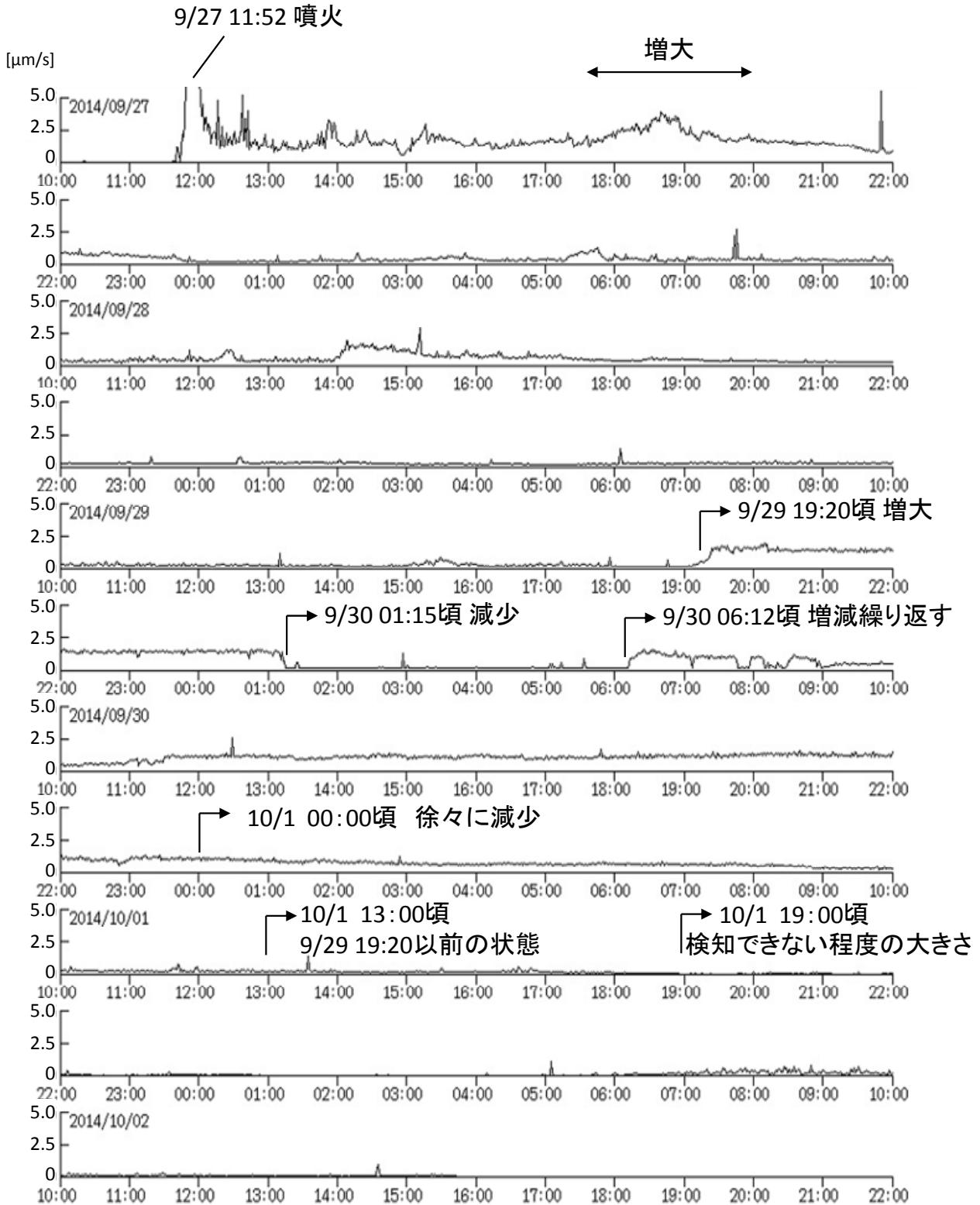


図 1 御嶽山 田ノ原上観測点（剣ヶ峰南東約 2 km）の上下動地震波形の 1 分間振幅平均値の推移（2014 年 9 月 27 日 10 時～10 月 2 日 15 時 30 分）

・連続して発生している火山性微動は、増減を繰り返して継続していましたが、10 月 1 日 19 時頃からは検知できない程度の大きさとなっています。

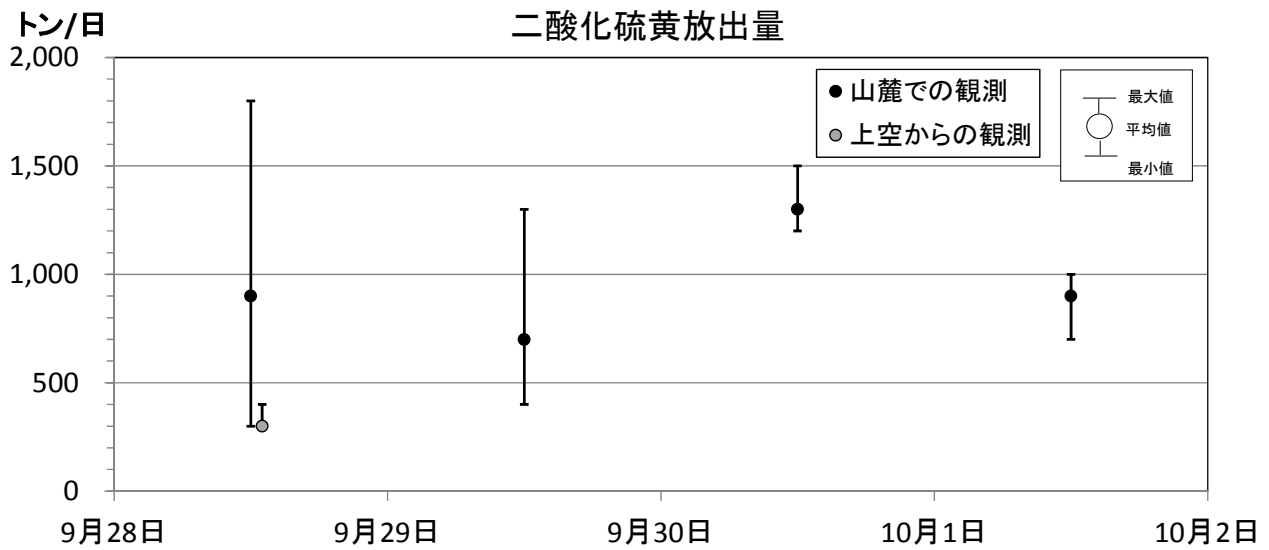


図2 御嶽山 火山ガス（二酸化硫黄）観測結果（9月28日～10月1日）

- ・ 9月28日以降、上空及び山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたりおおよそ500トンから1500トンで推移しています（いずれも速報値）。